

生き生きと学習する児童の育成

－伝え合う力の向上をめざして－

I 主題設定の理由

授業は集団で学び合う場である。集団で学び合う場には、当然、様々な学習問題についての考え方がでてくる。そして、子どもたちは友だちの様々な考え方をとらえ、それらの考え方について自分の意見を持ち、討議することにより、合理的な考え方を見つけ出すことができる。

本校の子どもたちについて、前記のことを授業観察等から評価してみると、学習問題について考え方をもつことはできているが、自分の考え方を友だちに伝える力が十分育っておらず討議が成立しにくい。考える力を伸ばすために、討議の成立を大切にしたい。

そこで、今年度は、まず、討議する力を伸ばすための指導を工夫し、伝え合う力の向上を図る。そして、本校で数年来取り組んできた、校内研修の主たる課題である「生き生きと学習する児童の育成」の実現に挑んでいく。

II 研究の内容と方法

1 研究仮説

各教科において、討議の仕方の指導を工夫すれば、伝え合う力が育つであろう。

2 研究内容

生き生きと学習する児童の育成をめざして以下を研究内容とする。

- (1) 討議の仕方の指導の工夫、及び各教科での日常的な実践化。
- (2) 「生きる教育」の研究。
- (3) 特別支援教育の理解。

3 研究の方法

- (1) 討議する力を伸ばす指導について工夫を行い、日常的な実践を通して検証していく。
- (2) 「生きる教育」の一人一実践を行い、実践を交流し合う。
- (3) 事例研究から特別支援教育について理解を深める。併せて、豊かな心を育む道徳教育の実践的研究を行う。

III 成果と課題

1 討議の仕方の指導の工夫、及び各教科での日常的な実践化について

(1) 成果

国語部会、算数部会とも子どもの実態や教科の特性を考えながら手だてを工夫できた。

そのため、子どもたちは、発言の仕方が分かるようになってきたり、発言するための考えをもてるようになってきたりした。

伝え合う力を育てるための手だてである国語部会のワークシート、算数部会での問題解決的な学習過程の工夫は日常的に実践しやすいものであった。

(2) 課題

討議の仕方について研究実践していくことにより、子どもたちの伝え合う力が育ってきたと児童観察から感じた。しかし、まだ伝え合う力が十分身につけているとはいえないと思われる。

併せて、子どもたちに自分自身の伝え合う力について、どの程度の力が育っており、次にはどのようなことについて取り組む必要があるのかとらえるという自己評価能力を育てていきたい。

2 「生きる教育」の研究について

(1) 成果

学習内容や指導方法が本校の児童の実態に合うものであり、1年生から計画的に指導してきている。その結果、卒業するまでに、自分が家族に大切にされていること、体が成長していくこと、友だちへの思いやり、自分の体を自分で守ることなど、命の大切さや思いやりの心を家族とともに育むことができた。

(2) 課題

地域の方々とも子どもたちに命を尊ぶ心を育めるようにしていきたい。

3 特別支援教育の理解について

(1) 成果

今年度は、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成や、LD、ADHD、高機能自閉症等について学習することができた。

特別支援校内委員会での児童の発達のとらえや対応の仕方等の機能が子どもの指導に役立った。

特別支援コーディネーターを中心にして、スクールカウンセラーやの保健師などの専門家、外部機関との連携が積極的に進められ、子どもたちの理解と指導が組織的に行われた。

今年度は、特別支援学級の教師がいたので、普通学級に在籍する特別支援を必要とする子どもへの支援を行うことができ成果が得られた。

また、生徒指導会議や職員会議の折にも実践事例から学ぶことができた。

(2) 課題

家庭との連携や今後の支援体制のさらなる確立。各学級における軽度の発達障害と思われる子どもへの支援体制の構築などが課題となる。

(研究主任 小野 紀男)